

区分	スペック・試行	担当課	河川課
----	---------	-----	-----

事業区分	河川	取組項目	河川改修における既存ストックの有効活用
現状・問題点・背景			
<p>河川計画を策定する場合、定規断面の改修にこだわるあまり、既設護岸の取り壊しや必要以上の用地買収が発生し、事業コストを押し上げる要因となっている。</p>			
取組項目の内容			
<p>河川計画を策定する場合、既存ストック（既設護岸等）の有効活用に積極的に取り組む。具体的な取組み内容としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 改修計画を策定する場合には、必ず現地調査を実施し、既設護岸の耐久性、流下能力等を勘察し、既存施設の残せる部分、改修が必要な部分の判定を行う。 ・ 計画河床に対し既設護岸の根入れが不足する場合には、根継等による対応が可能かどうか検討を行う。 ・ 現況で部分的に河道が広い箇所では、定規断面での改修にこだわらない。この際、計画高水位の設定には不等流計算を用い、計算水位の包絡線により HWL を設定する。 ・ 自然河岸で外力に抵抗できると判断できる場合には、護岸を省略し、現況河岸の存続を検討する。 			
取組項目の効果			
<p>既存ストックを有効に活用することで、既設護岸の取壊し費用が縮減できるだけでなく、用地買収や新たな護岸の築造を省略でき、事業コストの縮減が図られる。</p>			
イメージ（コンセプト）			